

第201回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 [予想配点：丸数字は点数を示す、合計58点]

問1

製造間接費の標準配賦率 [ ⑥ 4,200 ] 円

問2

当月完成品原価 [ ④ 43,120,000 ] 円

月末仕掛品原価 [ ④ 14,460,000 ] 円

問3 [予想配点：⑤点]

借方	金額	貸方	金額
仕掛品	21,350,000	材料	21,350,000

問4 [予想配点：⑤点]

借方	金額	貸方	金額
仕掛品	6,144,000	賃金	6,144,000

問5 [予想配点：⑤点]

借方	金額	貸方	金額
材料	68,000	材料消費価格差異	68,000

問6

原価差異の総額 [ ③ Δ1,935,000 ] 円

材料数量差異

材料Xの材料数量差異 [ ④ Δ800,000 ] 円

材料Yの材料数量差異 [ ④ Δ150,000 ] 円

製造間接費予算差異

予算差異 [ ④ Δ187,000 ] 円

能率差異 [ ④ Δ264,000 ] 円

操業度差異 [ ④ Δ270,000 ] 円

問7

責任会計の見地より実際消費量ではなく、実際購入量に基づいて購買活動の管理を行うべきなので、受入価格差異99,200円を材料勘定から受入価格差異勘定に振り替える。⑥

問題2〔予想配点：丸数字は点数を示す、合計30点〕

問1

①の方法

仕掛品			
前月繰越	[ ④ 4,738,000 ]	製品	[ ④ 32,300,800 ]
諸口	[ 30,853,975 ]	原価差異	[ ]
原価差異	[ ④ 190,225 ]	次月繰越	[ 3,481,400 ]

(注) 記入する必要のない空欄はそのままにしておくこと。

②の方法

仕掛品			
前月繰越	[ 4,600,000 ]	製品	[ ④ 32,300,800 ]
諸口	[ 30,853,975 ]	原価差異	[ ]
原価差異	[ ④ 226,825 ]	次月繰越	[ ④ 3,380,000 ]

(注) 記入する必要のない空欄はそのままにしておくこと。

問2

①の方法によれば、仕損の発生点に達していない月初、月末仕掛品にも正常仕損費を負担させてしまうことになり、正確な計算を行えない。③

問題3〔予想配点：丸数字は点数を示す、合計12点〕

名称	② 現実的標準原価
意味	現実的標準原価は、良好な能率のもとにおいてその達成が期待されうる標準原価をいい、原価管理に最も適した原価である。④
名称	② 正常的標準原価
意味	正常的標準原価は、経営における異常な状態を排除し、経営活動に関する比較的長期にわたる過去の実績数値を平準化し、これに将来のすう勢を加味した原価をいう。④